

香川ニュース

第 3 号

発行所 自治会
香川自委 会
広 報 員 会

殿山プールで水泳指導

↓嬉々として泳ぐ香小生

七月十日(金)香川小学校生徒たちが新装成った殿山公園プールで初の水泳教室を行なった。一人残らず泳げるようにとPTAで購入した用具も使って猛練習。楽しみにしていた生徒の喜びが、プールが校内にできなかったのは残念だが生徒たちは大喜び。校長先生が早速その感想をお寄せ下さったので次に掲げる。

殿山公園プールを使って

香川小学校校長 飯尾福治
本年度学校プールは諸般の事情から一応延期されたが、これに代って市民待望の市民プールが殿山公園に完成した。

利用できたので、実際使った上での私見をあくまで個人的な考案として述べてみたい。
県道に沿って山の中腹に位置したプールは眺めもよく静かな環境に恵まれている。ついこの間まで市内でシンナー遊びの最も激しい場所として附近の人からも敬遠されていただけに、こうした立派な



(写真説明)
(右)一人残らず泳げるようにと練習に励む香小の児童
(下)水中で喜びはしゃぐ子供たち



民主主義社会を代表する言葉に「市民による、市民のための、市民の政治」がある。またこれを地方自治、地域自治という身近な範囲に限って具現すれば、地方自治地域自治は、民主主義社会の基盤であるといえる。替えられ、いさえて、こうした自治の意識がどの様な形で住民に

香川ニュースに よせて

茅ヶ崎市市議会議長 加藤 勇 謹言
浸透し、かつ日常の活動の上で具体化されつつあるかは、はなはだ疑わしい。例えば、役員や代表が夜おそくまで熱心に討議し決まった事柄の連絡一つをみても、如何に徹底を欠いているか。また自分の家の前の道路や下水については

異常な関心を示す人たちが、こと地域全体や将来のことについてはほとんど無関心のように見られることもある。この原因は、一つには人口の急増と階層の分極化それにマス・コミュニケーション(報道)を通じての情報の交換の情

代といわれるが、実際多くの人が同じ場所に、同じ時間に集い話すことは、現代の経済社会では至難でもある。よってこの「香川ニュース」は住民にとつてかけがえのない対話の場所ともいえるのである。したがって今後、相模線の乗り入れや、住宅地開発の進むこの香川地域について、区画整理、経済基盤の確立、新市街地の形成、あるいは教育、公害対策等山積されていく問題について、この「香川ニュース」を通じて、「多数の参加、多数の学習、多数の行動」という民主主義の原理のもとに、住民参加による地域自治の向上のため、ぜひつとめていただきたいと提言する次第である。

請願と陳情の相異点

請願と陳情とどう違うか。参考までに説明すると、
請願は国民に認められた憲法上の権利の一つで、国民が国または地方公共団体に對して希望を申し立てることである。請願法には国会や衆、参両院に對するものと地方自治法による市議会に對するものがある。後者は請願の趣旨、年月日、住所、氏名を書き押印の上市会議員の紹介により提出。この場合紹介議員は請願内容に賛成のものでなければならぬと解されている。請願受付は三、六、九十二月(議会開会中)。請願書は議長が受理し該当委員会に付託。審査の結果は採択、不採択、継続審査、取下げ等となる。
陳情は執行機関にも議会にも行なうことができる。陳情は特定の事柄について適当な措置をとってもらうためにその実情を訴えることである。要望事項を書き適当の措置を要請するのだが、いつでもできるし紹介議員は不要。會議規則では議長は陳情書又はこれに類するもので内容を請願に等しいものは請願の例により処理するよう規定されている。

市総合計画の紹介

茅ヶ崎市は去年「健康で文化的な住宅、産業都市の建設」を目標に四十四年(五十二年)にわたる総合計画を発表した。総額二百二十億円で及ぶ大事業も住民の末端まで十分に理解されていないようなので、今後数回に分けて概要を紹介することとする。

「保育所設置」問題が前進

住民の多年の宿望である「香川に市立保育所を」という陳情は、四月二十七日の市議会で「香川住民のこの願意は妥当である」として、全会一致で採択されたことは既報のとおりであり、残るところは市当局が、この決議に對していかに対処するか決断の時機にかかっている。

計画の前提

(1)将来の人口(2)産業別就業人口

- △計画の主眼点
- 要約すると次の七項目となる。
- 1.秩序ある都市をつくる
- 2.老人や不遇な人を援護する
- 3.健康で快的な生活環境をつくる
- 4.市民の安全を守る
- 5.明日をにう世代の為に考慮
- 6.産業の調和ある発展をはかる
- 7.能率的な行政を進める。

規模(3)工業出荷額、商品販売額などの推移を取上げているがここでは人口の面だけをみる事にしている。人口は四五年の十三万人が五二年に十八万九千人香川は五千七百人が九千六百人になると推計されている。即ち全市の、平均伸び率4.6%に對し香川は7.0%となっている。

市街地開発の一環として(1)茅ヶ崎南地区(2)大 地区(3)菟園地区の市及び住宅公園による土地区画整理事業が十八億円の予算で実施される。

△道路整備
五二年までに路線延長約二二万米に對し舗装・新設改良・用地買収等をする。この費用として約十九億円が見込まれている。
このうち香川間門線は既に昨年度完了。篠谷・東地区の延七〇米の道路舗装も本年度施行が決定している。

香川の発展を みんなので考えよう

◆香川の現状

七月一日現在、市統計による香川の世帯数は一、四五九世帯、人口五、五五九人と急テンポで増加の一途にある。これは神奈川県下で現存する村よりも大きく、また二つの町に近い数字である。このよう急増の中で、住民の生活環境はどうか、公共的な社会施設の面だけとつてもみるべきものは少なく、市街地住民との間の地域的格差は年々ひどくなるばかりである。

◆市街地偏重の市政が格差を生む
茅ヶ崎市は、やっとな去年、長期展望に立った総合計画が策定され整備計画がようやくその緒に定めた段階である。われわれの今日の不利、不便は、長年とられてきた市街地偏重の先見乏しい市政のし

浜降祭に五万の客

「曉の祭典」として湘南海岸随一の名物となっている浜降祭が、十五日にぎやかに行なわれた。寒川神社をはじめ市内各神社のみこし十五台が曉方の浜に勢揃い。鉢まき、絆天の元気な若者たちがかけ声も勇ましく海に入ったり砂浜に上ったり。約五万の見物人も勇壮なみこしに圧倒されながらも伝統の祭りの楽しさを味わっていた。



わよせがもたらしたと言っても過言ではないと思う。

◆市の長期総合計画に期待
しかし、われわれとしても急激な経済発展と首都圏への人口流入という大きな現象の中に立たされ、諸社会施設が追いつけないでいる市の実情も理解できない訳ではない。そこでこのたびの長期計画の樹立を喜び、これに大きな期待をもつものである。

◆具体的実績で示せ
市は、この計画を長期にわたる市政の指標とすることを約束しており、その内容もそれそれかなるの具体性を示していると思うが、要は、今後この計画を責任をもって実行に移すかどうかにかかるとあって、全市民もまたこれを真剣に見守ってゆくであろう。さらに、これで見守ってゆく市民の幸福を確保できるかどうかもある。レールは敷かれたが、車が危険なく走らないと困るのである。

◆香川地区住民は考えよう
総合計画のあらましとこの計画

郷土資料館は北部へ

現在、茅ヶ崎市には、旧相模川橋脚(国史跡)ほか九カ所の文化財が国、県、市より指定されている。

ところで、最近の著しい市街化の進行で、各地のかくれた文化財や史跡は、破壊、散逸あるいは消滅の危機にさらされているといつても過言ではない。

茅ヶ崎市では、これらの文化財や史跡の保存にはたいへん力を入れていて、このほか民俗的資料の収集についても広く市民に協力を求めて、着々と成果をあげ現にかなりの資料が集められている。以上の活動と併行して市として新しく郷土資料館の建設を計画しており、目下その適地を物色中

の中で香川に関連する事項は、別掲のとおり今月から順次紹介することにしたが、香川を生活の根拠とするわれわれ住民としては、今の香川の現状を認識して、少しでも早く地域格差を取り戻すため、換言すれば生活環境の整備を急ぎよりよい香川を建設するために

1. どんな問題があるか
2. これを解決、実現するためどうすればよいか

◆当面の問題
個々には漠然とは分つてもなかなか出てくれないと思われるので、ここで自治会が当面の問題として考

- A 香川小学校の増築
- B 香川小学校にプールを設置
- C 同小に独立の中学を建設
- D 保育所の設置
- E パスを通すこと
- F 自治会館か市立公民館を設
- G 道路の新設、補修、舗装の延長
- H 下水処理施設を
- I 相鉄駅の乗り入れと駅舎の位置
- J 香川駅ホームに上屋を

資料館の建物構造などについては十分な配慮がなされるものと思

かかる意味では、現在の市域の中でこれに相当するところとして、小出地区を中心とした北部方面を以ては無く、この地帯で、風致に優れ比較的閑静が保てる場所、しかも歴史的風脈を身近に感じられるようなところが選定されることが望まれる。地域住民としてできるかぎりの協力をす

◆公共施設は広い
このような諸問題を少しでも前進させるには何よりも強い住民全体の参加意識と市広い行動が必要なこととは勿論である。しかし、公共施設は経済効果が優先し、市政全体の調和の中で考えられなければならない。

香川寿クラブに
関心と理解を
会長 小笠原美津雄

香川寿クラブが発足して、去る三月で七周年を迎えた。会員も漸次ふえて現在、男女合わせて一〇〇名を超えている。会員は親睦をはかっている。会員は親睦をはかっている。会員は親睦をはかっている。

集会的場所は、定期的に公民館を使っている。建物も古く、柱も傾きかけているが結構親しめる。

でも退会できる。「来る者は拒まず、去る者追わず」の社会福祉団体である。要するに老境期のわれわれが、クラブ員としてお互いの親睦と福祉の増進ができれば会

この1年、香川の人口はいくらふえたか....

香川の町は、世帯、人口ともにどんどんふえている。では一体どの位伸びているだろうか。そして市全体や各地区とくらべてどうか。市統計によると、昨年7月から1年間の状況は下表のとおり。増加率は市内86の町、字のうちでトップ。でも学校、道路、下水その他の社会施設が改善されないと近い将来行きづまることは必定。今こそ環境の改善、整備の急を強く訴えるときである。

区分	44.7		45.7		増		伸び率		
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯	人口	
市域全部	33303	124778人	34623	128493人	1320	3715人	40%	30%	
地区	鶴嶺	10105	38047	10374	39180	269	1133	2.7	3.0
	市街区	12053	43531	12260	43577	207	46	1.7	-
	小出	836	3854	942	4194	106	340	12.7	7.9
	松林	10309	39346	11047	41542	738	2196	7.1	5.6
松林の香川だけ	1324	5092	1459	5559	135	467	10.2	9.2	

国勢調査員 決まる

本年十月一日を期して、全国一律に行われる国勢調査には、香川地区から次の二十六名の方が調査員に委嘱され、大事な国家的調査に協力していただくことになった。

調査員氏名(敬称略)
坂田美弥次、岡本貞雄、熊沢信行、阿諏訪勉、野島一三、北島ゆき子、栗原庄太郎、亀田浦吉、古谷サト子、池田博七、岡本豊、大野スミエ、熊沢利勝、橋本喜代子、沼上三郎、国末節、棚橋捨吉、日野加寿人、亀井有、石亀トシ、高橋竹雄、鶴巻房子、野崎繁弘

文化

郷土の文学散歩
古典に見る「砥上が原」

現在の茅ヶ崎から藤沢までの海岸を古くは「砥上が原」といつた往時の東海道でもあり渡舟前の休憩地だったので古典の中にその名がしばしばみられる。

先ず『新編相模風土記』には、「砥上原附八松原 地理を按ずるに高座郡の東南海浜の地、今の鶴沼村より茅ヶ崎村に至る迄の間、当時一円の曠原凡東西二里余、南北六町程の地なりしなるべけれど後世村落をなし田地を開きたれば昔の形状知べからず。今の砲術場は其遺名なり。鎌倉將軍義兵を挙げし初、和田小太郎義盛八松原を押し通りし事あり。」と書かれてい

る。現在「八松最中」などお菓子に名づけられたり、香川小学校の校章や市内の校名に松がつけられたりするもの、この八松原に由来するわけである。

『源平盛衰記』には、「治承四年八月二十五日、和田義盛三百余騎にて鎌倉通りに腰越、稲村、八松原、大磯、小磯打過ぎて酒匂の宿に着けり。又木曾追討佐々木四郎高綱砥上八松等の原を馳過し事もあり。」とある。『平家物語』に



は内大臣宗盛が捕われて鎌倉に入る時の記として「小磯大磯の浦々八松の砥上が原御輿が崎をも打過ぎて鎌倉へこそ入給へ。(八松は八松の転訛ならん)」とある。『海道記』には真応中の景色を記して「相模川を渡りぬれば懐島に入砥上原を出て南の浦を見やれば浪のあやおりはえて白き色を争ひ、北の原を望めば草の緑染なして浅黄さらせり。中に八松と云ふ所あり八千歳のかげにたちよりにて十八公の栄をさかりにす
八松の八千歳の蔭に思ひ馴れて砥上が原に色も替らじ」とある。『東国紀行』によれば、「相模川の舟渡して行けば大なる原あり、砥上原とぞ」とあり、天文の頃は曠原であったことが知られる。『曾我物語』にも大磯の山下の長者の女虎という十七才になる遊君を祐成が年頃思ひ、せめてひそかに三年間通っていたが、五郎も一緒に通って敵をねらっていた。或時敵の佐衛門尉が伊豆から鎌倉へ参る時に、曾我兄弟が大磯にいたが五郎がみつけて十郎に「このよう便宜をねらうために年来ここへ通ったのだ。砥上が原はよき原である。さあ追いついて矢一つ射よう。」といて弓押張り矢かき負い馬に乗り追いつき見ると、江間小四郎は五十騎ばかりで困んで「たった二騎で馳入って討つ事もできないだろう。一生の大事だから仕損じて笑われるよりただ何となく通ろうと思うがどうか」といったので五郎も「こうこそ」といってそのまま通りすぎてしまった。後に五郎は君の御前に召し出された。「祐経は鎌倉へ繁く通ったのに途中では、ねらわれなかつたのか」との問いに「この四、五年間、足柄箱根湯本國府津大磯小磯砥上が原、もろこし、相模川懐島やつまづが原、腰越由井の浜深沢辺に徘徊し、野路山路に宿泊してねらったが、敵は四、五十騎、我々は二人又は一人思ひながら空し

く今まで延びた。」と答えているのが記されている。また木曾の万寿で名高い『菅草紙』にも乳母の勤めで今様をうたう一人として万寿が鎌倉へ行く記述に「曇らぬかは星の谷の、砥上河原をもうちすきて鎌倉山に着き給ふ」とある。『東国紀行』には、「駒とめてしはし、とりかふかかげもなし水花川の波の下草かくいひつつ相模川の船渡りして行けば大なる原あり。とかみが原とぞ。これは当國の歌に入れりとなむ。此の原のあたりに見えたる神社あり。問へば八幡勧請の一なりとぞ。花の梢一木二木神さびたり。をる人やとかみが原の八幡山神のもてふ花のさかりはといひつつ行けば江島も程なし」とある。ここにみえる神社は、現在浜之郷にある鶴嶺 八幡宮で、

郷土の歴史
香川と香川氏

「承久の変」まで在住 (その1)

伊東 信子

香川氏は相州以外には安芸、多度津、讃岐、豊前、丹波、越後、石見、出雲、備後、備前等に存している。「香河」とも記した。相州の「香川」は「香川庄」より起るといふ。桓武平氏鎌倉氏流で平群系尾に「忠通、相州鎌倉、梶原・金井等祖」と載せ、香川系図には「忠道一鎌倉景通一権五郎景政一権六景秀(備前守)一助大夫高正一権大夫家正一五郎経高(初め景高香川庄を領し子孫香川を氏とす)一三郎経景その弟義景」とある。『源平盛衰記』には香河五郎、東鑑巻二十五に香河三郎、香河小五郎、下つて「鎌倉大草紙」に香川修理亮がみえて三浦氏と同祖で忠通の第三子景通から出ている。忠通の第三子相模鎌倉を食んでいた鎌倉氏と称した。景政、景久の二子があつた。景政は権五郎と称し源義家、源頼朝を石橋山に救い後にその重鎮をなつた景時、宇治川の戦いに佐々木高綱と先陣争いをした景秀など名だたる武人が一門にいる

源頼朝が石清水より矢畑本社山に勧進し、その子義家が奥羽征途の時に現在地に社殿を造営遷座。以来茅ヶ崎始め数村の鎮守として崇敬され鎌倉時代には当地の豪族懐島氏の祖が別当寺として僧道印を開山とする勝軍寺(後、勝福寺、常光院)を建立したという。西行法師も行脚の時に砥上原を過ぎて和歌を詠んでいる。即ち『西行物語』に「相模國大場と云所、砥上が原を過ぐるに野原霧の隙より風に誘れ鹿の鳴声聞えければ、芝まどふ葛のしげみに妻籠て砥上原に牡鹿鳴くなり」とある。『方丈記』の作者鴨長明の露旅の歌にも「浦近き砥上原に駒止めて片瀬の川の潮干をぞ待つ立かへる名残は春に結びけん砥上が原のくずの冬がれ」と一首「歌枕名寄」にある。

頼朝の死後景時、景季らは他の御家人たちと対立し鎌倉を脱出して上洛の途中、今の清水市の西方、大内附近でその地の武士たちの攻撃をうけ、景時、嫡子景季、弟景高らことごとく討死している。この時戦った武士の中に吉香小次郎があり梶原景茂とわたりあつて共に討死している。小次郎は安芸移住以前の吉川氏であり、後世梶原一門の香川氏がその家臣となるとはまさに運命の皮肉ともいふべきだろう。景時は上洛の途につく前に寒川一の宮に築城している。これがいよいよ梶原景時だ。『吾妻鏡』正治二年正月の条に「二十日丁未晴、辰の刻、原宗三郎飛脚を進めて申して曰く、『梶原平三郎景時に備ふるの儀、人以て怪しと成し処去る夜丑の刻、子息らを相伴ひ、ひそかに此の所を出づ。これ謀友を企てて上洛するなり』云々とあり幕府は評議の結果、三浦、比企、糟谷、工藤らの軍兵を追手としてさしむけた。相州高座郡香川庄住人の香川義

『保曆間記』に「鎌倉將軍頼朝、八松原にて怪事に逢給ひし事」として「建久九年の冬、右大将殿相模川の橋供養に出で遷らせ玉ひけるに八松の原と云所にて亡ぼされし源氏義広義経行家己下の人々の怨霊現して將軍に目を見合せり」とある。これは稲毛三郎重成が亡妻供養として追善架橋し建久九年十二月二日の渡り初め式(橋供養)に頼朝も出席、帰途怨霊に悩まされて落馬事故にあつたのを指しこれが死の原因といわれる。「馬入川」の名前もここから起つたといわれその橋脚は現在下町屋橋の東南方水田中にあり、國の史跡指定となつている。こうして数々の資料により過ぎし日の事どもを想起しつつ海辺を歩めば、一本一草にもまた万感の思いがこもることだろう。(伊東記)

景は承久の変に戦功があり芸州佐東郡八木村地頭職に任せられ、景光の代に芸州に下つており、この家は鎌倉姓を名のつていた。「大日本地名辞書」によると「子孫十一世美作守義景まで香川に住す。後、毛利元就に属し彼國へ移居す」とあるので、芸州の香川氏も当地から移住したわけである。有名な歌人香川景樹はこの子孫と伝えられ岩国市の徴古館には彼の和歌の軸が文化財としてある。香川市重要文化財である長屋門に香川の門札があるが、御主人は香川晃氏。東大で西洋史を学び福岡女子専門学校教授をなさつた方で当年八十一才。晃氏の話によると景樹は氏の家、京都の香川景継の子孫香川景柄の養子となつたが岩国に住んだことはなく、徴古館の軸は、香川氏の主家吉川氏が収集したものという。香川氏が当地に住んだのが義景までとする、鎌倉時代承久の変まで(一二二一年)は居住したことになる。(以下次号へ続く)



「茅花会」の
七月投句集より

子(話術)困む夕餉や冷奴 長島 久江
日銭得てまた焼酎の夜が明ける
肩越しに声をかけ合う夜店の灯
青田風そこだけあかき団地の灯
傘半分すぼめて梅雨の赤電話
捨て水にひっくりかえる毛虫か
な 藤村 球子
梅雨長し軒先暗くおむつ干す
老夫婦膝までつかり田植かな
長崎 成美
草刈り女汗してつかむ涼ゆたか
針に座す遠田に蛙雨さそう
町抜けて七夕の夜空仰ぎ見る
音もなき雨に紫陽花咲きほこる
香沢 みや
取り入れて梅雨のきょうりの緑濃
し 裕 百合子
初茄子とれば紫紺の露こぼす
梅雨うとしブラウス派手に着て
もみる 柳田ふじ子
紫陽花の花の彩着て子の遊ぶ
一輛の電車青田を縫い過ぎぬ
青すだれ声はなやかに透るまど
魚釣れず源五郎とり子の戻る
殿山にプール客呼ぶ世の移り
月天心湖上の船も灯火なし
寝そびれて映える敷章賜湯の日
静謐やただ玉音のさわやかに
夏祭り笛や太鼓は森の中
田草とり追いつ追われつ腰伸ばす
亀井 老生
七夕や筆太にかく天の川
仕かけ花火辻いっばいの人だか
熊沢 晴月
編集後記
加藤市会議長から激励をいただいた。使命の重大さを痛感する。それにしても読者の投稿の少ないのが淋しい。会員諸氏の御意見、創作、研究など御寄稿を切望する。(埋金記)